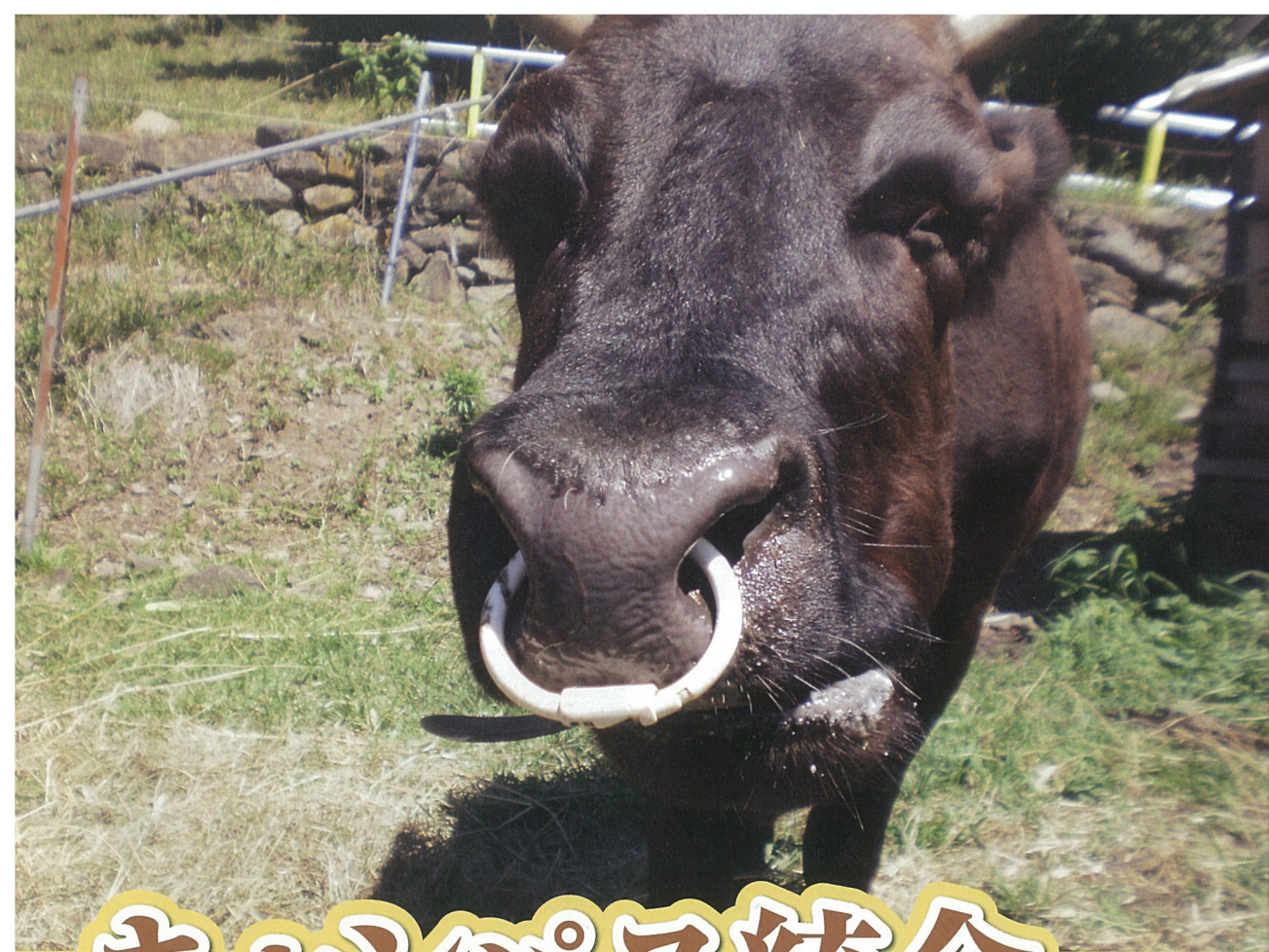


実りの秋



キャンパス統合

今春から、小諸・松代と二つに分かれていた農学部総合農学科のキャンパスが統合されました。1年生54人、2年生47人と100人を超す学生と一緒に学ぶ校舎は昨年とは違って少しだけ賑やかです。そして、農場にも変化がありました。この「ニューフェイス」の登場です。宮崎県の口蹄疫の発生で今年は畜産にとっては大変な年となりましたが、キャンパス一番の人気者であることには変わりありません。1,2年生が同時に農場で学ぶ機会も増え、先輩からの「指導」も昨年以上に濃密になっているようです。



農業大学校校長
小林 夏樹

一年生が農家体験実習から帰ってまいりました。受け入れていただいた農家の皆さん、受け入れ農家との調整、集合研修などお世話いただいた農業改良普及センターの皆さん本当にありがとうございました。おかげさまで、自信になったと同時に忘れがたい貴重な体験ができました。

二年生は、十二月のプロジェクト演習発表会に向けまともに入ったところです。

キャンパス統合により二年間松代で学ぶことになったため、一年生も二年生の学習や生活態度を目のあたりにすることができ、よい効果があがっていると思います。

今年は大変な暑さがいつまでも続いておりましたが、秋分の日を境にいきなり秋になりました。暑さの影響は、作物によっていろいろあったようです。しかし、いよいよ実りの秋。農大でも例年のように、米、なし、りんご、ぶどう等の収穫が真々の盛りです。十一月の農大祭には、学生が丹精込めて作った農産物を皆さんに味わっていただけると楽しみにしています。

四県体育大会・連続優勝

十月十五日、埼玉県坂戸市民総合運動公園で四県体育大会が開催されました。バスケットボールは二年連続で優勝しました。バレーボールは今回は惜しくも優勝を逃しましたが、準優勝と好成績をあげました。来年度は長野県が開催県となります。四県大会に参加しなかった学生たちも小布施の町並み散策を楽しみました。



新兵器登場

パソコンの進歩は日進月歩ですが、授業でも活躍しています。かつては顕微鏡を覗いては、生物組織を観察したのですが、いまはパソコンの画面にそのまま映し出されるのです。画像に取り込めば、解析ソフトで大きさを測定したり、発表にも使えます。現在の学生は小学校のときからパソコンに慣れ親しんでいますから、新型装置もゲーム感覚で使いこなしてしまいます。



農家体験実習

九月七日から十月一日まで、二年生は恒例の農家体験実習に参加しました。「非農家出身なので迷惑をかけるのか心配」「自分の家とどう経営が違うのだろう」様々な思いを胸にキャンパスを二週間ほど空けていた学生たちが、真っ黒に日焼けし、見違えるようにたくましくなっていました。

卒業時に大学の一番の思い出を聞いてみるとほとんどの学生が「農家体験実習」をあげます。貴重な学びの場を提供していただいた農家の皆様本当にありがとうございました。



男子厨房にいるべからずと言われたのは、昔の時代。今は、食・農連携。最低限の調理方法はマスターしておかなければなりません。というわけで、おやきづくり。といっても、実はこれは農大の授業のひとつです。二年生の選択科目「農産加工学」では黄桃のシロップ漬け、おはぎ、うどん、豆腐づくりそば打ち等を学びます。



発表会の様子



10月22日(金)には体験実習の発表を行いました

季節はずれの桜



農業大学校には500本余りの桜があり、春には満開となって新入生を迎えます。しかし、今年のうち3本の「エゾヤマザクラ」がなぜか9月に咲き、9月17日にSBCニュースで放映されました。

コラム・資格取得

毒物劇物取扱者、危険物取扱者、玉掛け技能、小型移動式クレーン運転技能、牽引免許、アーク溶接、フォークリフト運転技能。。。

何か呪文のような言葉ですが、いずれも農業大学校で取得できる資格なのです。バックホーを操作したり、難解な元素名を覚えたり、化学反応式に格闘したり、短い就学期間に資格を取得するのは大変ですが、就職戦線が厳しい中、資格取得も欠かせません。



果樹コース



花きコース



6月22日(火) 飯山市の梨元農園を見学

野菜コース



6月16日(水) 北佐久園芸でレタスの収穫を見学

今年から二年生は「ゼミ講義」「ゼミ演習」という新しい授業がはじまりました。果樹コースは、七月二日に下伊那郡松川町の奥田農園(奥田實氏)で、おとうとう等を中心とした観光果樹経営の研修を行いました。観光農園の現状や課題について理解を深めました。

二年生のゼミ演習

農産物マーケティング論実習

二年生は十月五日から七日まで恒例の農産物マーケティング論の視察研修を行いました。群馬県の市民農園や茨城県の直売所を見学、直売所では、お客さんにアンケート調査を行いました。

つくば市の中央農業総合研究センターでは、農産物マーケティング研究チーム長から、最先端のカット野菜の流通や販売の動きの講義を聴き、研鑽を深めました。



教授登場

土壌肥料学

荒井 好郎先生

農業大学校では多くの専門授業がありますが、人気が高い名物教授の授業を覗いてみましょう。土壌の構造を機械を使って調べたり、土壌や作物中に含まれる窒素、リン、カリウム、カルシウム、マグネシウム等を化学分析する土壌肥料学演習です。

「決められた方法で操作することで、眼に見えない土壌のデータが数値で得られることの面白さを味わって欲しいと思います」と荒井先生は学生への期待を述べています。先生は元長野県の野菜花き試験場の土壌学の研究者。多くの実地経験に満ちた先生の授業を通じて、学生たちは土の神秘に興味を持っていきます。



オープンキャンパス

八月五・六日、例年になく猛暑日の中、恒例のオープンキャンパスが開かれました。「はきはぎとしたわかりやすい説明。とても素晴らしい学生さんがいる」「気さくで気持ちよく案内してもらえた」学生たちのキャンパス案内は、今年も好評でしたが、新顔として新たに登場したのがこれ。農大産のポップコーン用トウモロコシを鍋を熱するとたちまち種がはじけます。するとおなじみのポップコーンが出来上がり。「食育」の実施体験は予想外の人気を博しました。



韓国の若者との国際交流



十月五日、韓国の農業大学校生たち二十九人が本校を訪れ、活発に意見交換を行いました。
 「韓国で一番の経営者になりたい」「一番農業機械に詳しいと言われる専門家になりたい」と韓国の若者たちはなかなか元気です。「日本農業がこのままでは駄目になるので農業を目指したい」という農大生の主張には「日本農業の何が問題か。どうすればいいのか」という鋭い質問がすぐにぶつけられます。「日本では若者のご飯を残したりするが、それは農業現場の苦勞を知らないため。そのためにも若者から農業を実践しなければならぬ」という回答には韓国側から大拍手がわき起こりました。海を越えた異国の若者との交流は農大生には刺激となったようですが、同時に同席した教職員もふだん目にはできない農大生の意外な底力を痛感しました。

平成23年度長野県農業大学校入学試験案内

1. 募集人員及び修学年限

学 科	修学年数	募集人員	学 科	修学年数	募集人員
総合農学科	2年	60名 うち推薦入学者 おおむね50%	実科・研究科	各1年	実科:計50名 うち推薦入学者 おおむね50% 研究科:計50名
専門技術科		若干名 うち推薦入学者 若干名			
		野菜実科及び研究科			
		畜産実科及び研究科			
			南信農業実科及び研究科		

2. 入学願書の受付期間・試験日

願書受付 H22年12月20日(月)～H23年1月6日(木) 入学試験日 H23年1月17日(月)

3. 問い合わせ先

入学試験についての問い合わせ、入学願書等の請求は、

長野県農業大学校事務局 ☎026-278-5211(代) 担当:宮澤 茂樹まで

なお、郵送を希望する場合は200円切手をはった返信用封筒(角型2号)を同封し、下記まで請求ください。

〒381-1211長野県長野市松代町大室3700